

各分科会検討結果に対する質問事項

1 分科会Aに対するもの

- (1) 「協働の精神に立脚した市業務の再構築」という観点について
 - ① 行革の手法に「協働」の概念を持ってきている理由は何ですか。
 - ② 「新しい協働型委託」、「新しい協働型指定管理」とは、どのようなイメージですか。

- (2) 「人件費・物件費の見直し検討結論」について
評価の視点に、「競争原理によるサービス水準向上」、「官に民の経営思想の導入」とありますが、政策的に行政自らが実施すべき事項もあると考えられるし、金額的なものだけで判断すると返ってサービスが低下したりしませんか？

- (3) 「指定管理施設の検討結論」について
損益実態と利用者数・分布等を評価して点数化しているが、その評価の前にそもそも「施設の政策的存在意義」を検討する必要はありませんか。

- (4) 「補助金の検討結論」について
 - ① 「農業関係事業」や「子育て支援関係事業」などについて、政策目的の達成に最適な事業構成、展開となるように事業の再構築が必要とありますが、具体的にはどのようなことですか。

 - ② 一括交付金制度とはどのようなイメージですか。

- (5) 「公債費削減」について
郷土新聞によると、掛川市の実質公債費比率は、静岡県内で下位に位置しています。他方「経常的経費の見直し・刷新」の検討案によると「市長期財政見通し」による公債費削減計画値を採用しています。
結果的に、掛川市の実質公債費比率は、どのように改善（推移）すると予測されるのでしょうか。

2 分科会Bに対するもの

(1) テーマⅠ「シティプロモーション」について

シティプロモーション強化について、市役所内の人づくり・組織づくりが強調されています。新政策個々に市の直接関与を誘導すると旧態然の在り方ではありませんか。

(2) テーマⅡ「市有財産の有効活用」について

①「市有財産の有効活用と収支バランスの改善」とありますが、骨太の市有財産の運用革新と技術的にもスピード感からも対応可能な個々の細かい施策との位置づけが逆ではありませんか。「幹」の議論から始め、次に「枝葉」の提案を。その「幹」の部分では、先日の全体会でも指摘のあった公共施設や市営住宅、学校給食費等々との分科会Aとの整合性を取るべきではありませんか。

②資料12ページの「歴史文化施設」竹の丸の公設民営化提案の中で、カフェレストランを営業するための人件費等について考慮されているのでしょうか。

(3) テーマⅢ「収納率のアップ」

分科会Aは数値目標を掲げることで議論をスタートさせています。審議会自身も数値目標無しには成立しないものと思われれます。分科会Bの議論でも市税の項目で「数値目標」が提示されていますが、その他提案施策毎に数値目標は提案できないのでしょうか。

また、収納率改善のためには、現状の原因分析と、その原因各々に対する対策立案が重要と思いますが、その具体的な内容はどのようなものですか？